

エルヴィン・ヴルム 人のかたち

会期：2025年4月12日（土）－11月16日（日） 十和田市現代美術館



オーストリアの彫刻家 エルヴィン・ヴルムによる日本の美術館での初個展

十和田市現代美術館では、2025年4月12日（土）から11月16日（日）まで、エルヴィン・ヴルムの日本の美術館での初個展を開催します。当館は、ヴルムの作品(《ファット・カー》《ファット・ハウス》)を日本で唯一常設展示しています。

オーストリアの重要な作家の一人であるヴルムは、石膏や金属といった伝統的な彫刻の素材だけでなく、写真や衣服、絵画といった多様なメディアムを用いて、彫刻表現の特性を探究し、その固定化された概念を拡張してきました。

本展では、彫刻の最も原初的なモチーフである人の身体を起点に、時間、量塊と表面、具象と抽象を巡るヴルムの作品を紹介します。衣服や家具といった身の回りの物質や、言葉の記号的な意味、あるいは社会のイデオロギーといった様々な要素に影響を受ける「人のかたち」の輪郭は、脆弱で可変的であり、自由な可能性を含むものです。ヴルムの作品は、時に滑稽に、時に逆説的に、社会に存在する規範・制度・権力の構造を炙り出します。

2024年の最新作である大型インスタレーション《学校》や、「皮膚」シリーズ、「平らな彫刻」シリーズなど、近年の作品を日本で初公開します。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 展示構成 】

最新作の大型インスタレーション《学校》を展示

オーストリアで 2024 年に公開された《学校》を本展のために制作・展示します。本展では、歪められた形の学校の教室の内部に、明治維新以降に学校で使用されていた教材や、子どもたちが目にしていたと考えられる印刷物が掲示されます。学校という制度やそれを含む社会自体が圧力を持っていること、「正しさ」や社会の規範が時代の変化によって移ろいゆく曖昧なものであることが示唆されます。



参考図版《学校》2024年
撮影：Rainer Iglar / Salzburg - Vienna
Courtesy: Albertina Modern, Vienna

写真、衣服、絵画など、さまざまなメディアの作品で展示を構成

奇妙なポーズの滑稽な聖職者を被写体にした「司祭と修道女」の写真シリーズや、人間の第二の皮膚として衣服を応用した《吊されたセーター》、彫刻の表面と量塊の関係を表した「皮膚」シリーズの《立っている花 2》、平面性をラディカルに追求した絵画の「平らな彫刻」シリーズなど、多様なメディアで表現されるヴルムの作品を展示します。



参考図版 作家スタジオでの「皮膚」シリーズと「平らな彫刻」シリーズ
Erwin Wurm, Bildrecht Wien, 2025
撮影：Ulrich Ghezzi

「1 分間の彫刻」シリーズのまちなか展示

十和田のまちなかの施設や店舗で「1 分間の彫刻」シリーズを展示します。作品の指示に従って観賞者が 1 分間だけ静止したポーズを取る作品です。個人的なものであるはずの「からだ」が自分の意思を離れ、彫刻化されます。

【 作家ステートメント 】

日本の美術館での初個展となる「人のかたち」展では、身体、フォルム、空間の狭間で絶えず変容する境界を探求します。彫刻、写真、絵画、テキスタイルといった様々な媒体を通して、量塊と表面、物質的なものと不条理なものとの関係性を考察しています。

現実世界を細長く歪めた《学校》という作品をはじめ、《ニットの壁》や彫刻的な《吊されたセーター》に至るまで、私の作品は身体やオブジェクトが外部からの圧力にどのように適応し、伸縮し、順応するかを問いかけています。「平らな彫刻」シリーズでは従来の彫刻が持つ奥行きと量感という概念に疑問を投げかけ、「皮膚」シリーズや編み物の作品では身体を可塑的な表面として再解釈しており、そこでは形態的な構造が素材そのものの特性へと融合していきます。

私の制作活動の中核にあるのは、矛盾です。スケールや歪み、身近なオブジェクトを実験的に扱うことによって、鑑賞者に身体性とアイデンティティの限界を見直すよう誘います。「人のかたち」展において、身体は、単なる表現の対象を超えて——圧縮し、拡張し、再定義され——変容の場となるのです。

本展は、日本の皆さんとのつながりを深めるうえで重要な契機となるでしょう。私たちが周囲の世界をどのように形作り、またその世界によってどのように形作られているのかについて、好奇心を刺激し、思索を誘うことができれば幸いです。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

エルヴィン・ヴルム



撮影：Markus Gradwohl
©Erwin Wurm, Bildrecht Wien, 2024

1954年ブルック・アン・デア・ムーア（オーストリア）生まれ。ウィーンとリンバークを拠点に活動。ウィーン応用美術大学とウィーン美術アカデミーで学ぶ。ヴルムは彫刻の概念を徹底的に拡張し、時間、量塊と表面、また具象と抽象の関係について問いかける。主な個展に「Deep」（国立マルチャーナ図書館・コッレール博物館、イタリア、2024年）、「Trap of the Truth」（ヨークシャー彫刻公園、イギリス、2023-2024年）、「Erwin Wurm Photographs」（ヨーロッパ写真美術館、フランス、2020年）など。彼の作品は、「第57回ヴェネチア・ビエンナーレ」（イタリア、2017年）のオーストリア館で展示された。十和田市現代美術館の常設作品として、《ファット・ハウス》、《ファット・カー》を展示している。



《ファット・ハウス》《ファット・カー》2010年
撮影：小山田邦哉

【パブリック・プログラム】

エルヴィン・ヴルムによるギャラリートーク（英語から日本語への逐次通訳付き）

日時：2025年4月12日（土）14：00—14：40

会場：十和田市現代美術館 企画展示室 / 料金：無料 ※要企画展チケット

【開催概要】

- 展覧会名： エルヴィン・ヴルム 人のかたち
 会 期： 2025年4月12日（土）－ 11月16日（日）
 開館時間： 9：00－17：00（入場は閉館の30分前まで）
 休 館 日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）ただし4月28日、5月6日、8月4日、8月12日は開館。
 会 場： 十和田市現代美術館
 観 覧 料： 一般1800円（常設展含む）、高校生以下無料
 主 催： 十和田市現代美術館
 後 援： オーストリア文化フォーラム東京、青森朝日放送、青森テレビ、青森放送、エフエム青森、
 デーリー東北新聞社、東奥日報社、十和田市教育委員会
 企 画： 中川千恵子

十和田市現代美術館

2008年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができます。

所在地：青森県十和田市西二番町10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com



お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

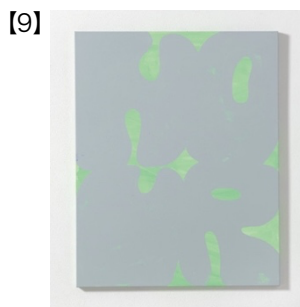
【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX : 0176-20-1138 / E-mail : media@towadaartcenter.com

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行



媒体名 _____
 媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他 (_____)
 御社名 _____
 御担当者名 _____
 所在地 〒 _____
 電話 _____
 メールアドレス _____

【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com